事務局 amateur スタッフによる **フォロー・アップ メモ・ランダム**

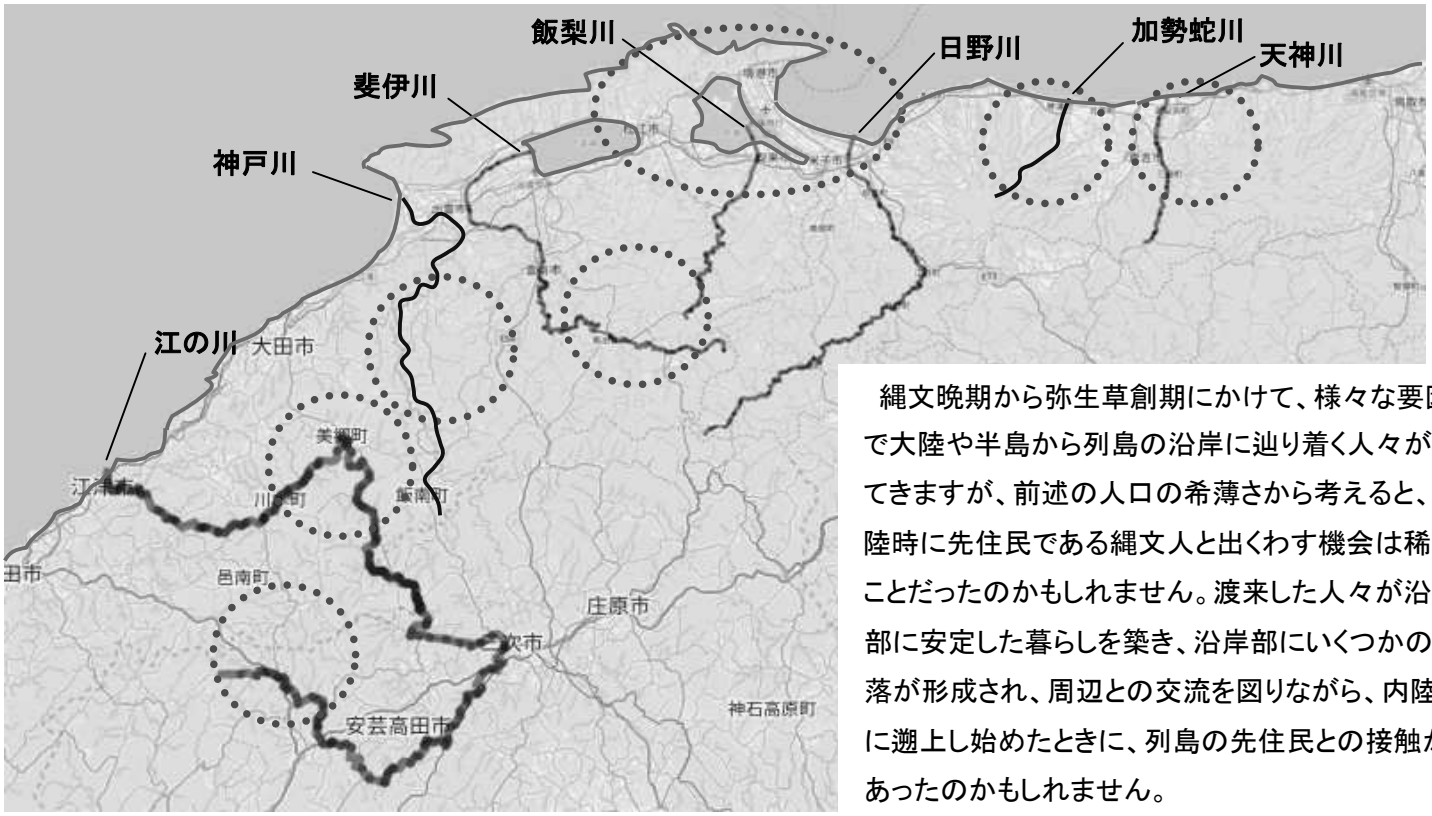
山陰の縄文人口

下の絵はネットで見つけた縄文時代の集落の想像図です。住居らしき建物は2棟だけですが、人の姿は、手前で煮炊きする人や土器を作る人ばかりでなく、獲物を運ぶ人や河口付近で魚を捕る人もいます。森の入り口には木の実を採集する人もいるようで、二十人くらいが描かれています。これだけの人数が起居するにはさらに数棟の建物が必要です。住居は広場を中心に環状に配置されて、一つの集落を構成しています。これを環状集落と呼びますが、関東・東北地方の一般的な縄文集落と考えられています。

ところが、山陰地方の縄文人の暮らし方は少し違っているようです。智頭枕田遺跡や貝谷遺跡では2～3棟しか出土せず、この規模では集落を維持することができません。

レジメに描かれた斐伊川・神戸川上流域の縄文集落想像図でも、2棟の建物と数人が描かれているだけで、広場もなく木々に囲まれています。これらは蛇行する河川の河岸段丘上にあり、川の屈曲部に点々と散在しています。想像図には川に沿っていく筋かの煙が見て取れます。この煮炊きする煙からお互いの動静は確認できるのでしょう。鹿などを狩猟するには互いの協力が必要で、地域全体が一つの集落として機能していたのではないかと考えられるそうです。山陰独自の散在型集落と言えます。川沿の豊かな森は、木の実や山菜ばかりでなく小動物も多く、川からは魚も豊富に獲れたので、地域全体が連携する頻度は多くなかったのかもしれません。

縄文時代で最も人口が多かった中期には約25～30万人が列島内に住んでいたと推定されています。この数値はカルフォルニア先住民の人口と面積の比から計算した値と、出土している遺跡数から計算した値がほぼ一致しています。しかし、山陰地方中部域(倉吉市～浜田市付近)では前者の計算では約4300人となりますが、遺跡数からの算定ではわずか700～800人程度となります。下の図はレジメから山陰地方中部域(倉吉市～浜田市付近)の遺跡集中か所を抜き出し、主な河川を重ねたものです。これに流れ込む支流にも散在型集落があったと思われますが、沿岸部への進出はほとんど見られません。



縄文晩期から弥生草創期にかけて、様々な要因で大陸や半島から列島の沿岸に辿り着く人々が出てきますが、前述の人口の希薄さから考えると、上陸時に先住民である縄文人と出くわす機会は稀なことだったのかもしれません。渡来した人々が沿岸部に安定した暮らしを築き、沿岸部にいくつかの集落が形成され、周辺との交流を図りながら、内陸部に遡上し始めたときに、列島の先住民との接触があったのかもしれません。

※ 古代史(弥生時代～飛鳥時代)に疑問をお持ちの方、疑問・質問・反論　大募集　(体裁は自由ですが、文書でお願いします)